

# ポッポ通り探索記

## ～東野鉄道廃線跡地を訪ねて～

会 員 渡 辺 美 由 紀

小さいころ、夏休みになるとよく黒羽のおばあちゃんの家へ預けられました。私の母の生家で今はもうありません。幼稚園か、せいぜい小学校低学年だった私は、2歳上の次兄に手を引かれて西那須野から黒羽まで「東野鉄道」に乗りました。親と離ればなれになる一抹の寂しさはあったものの、東野鉄道の車窓から眺める田園の風景は幼心にも寂しさを忘れさせてくれる輝きがありました。

東野鉄道は大正7年に西那須野にしなすのと黒羽くろばね（13.1キロ）、大正13年に黒羽なすおがわと那須小川（11.3キロ）を結ぶ近代的な交通機関として、ここ那須野が原に開通しました。明治初期、那須野が原は人も住めない不毛の原野でしたが明治維新後の近代国家建設計画もあり、まず日本鉄道奥州線（現東北本線）が明治19年に開通、大正時代にその周辺にも鉄道網が張り巡らされたようです。しかし昭和の時代になって手軽なバスや利便性の高いトラックにとって代われ、昭和40年代にはマイカーが常態となり、鉄道事業の累積赤字が膨らみ、とうとう昭和43年に惜しまれながら廃線となってしまいました。



ただ、今でも西那須野から大田原間の廃線跡約4.2キロが人と自転車だけが通行できる遊歩道「ポッポ通り」として残っています。そこで今回はこのポッポ通りから今日ではあまり痕跡も残っていないその先の「廃線跡地」のごく一部を歩きながらご紹介させていただきます。

ポッポ通りの入口は私の事務所のある西那須野駅の近くです。沿道には何十年もの間に沢山の住宅ができました

たが、当時の田園風景の面影も残されています。入口から1600メートルほど歩くと「乃木神社前」。乃木神社には明治時代の乃木希典まれすけ將軍ご夫妻が祀られています。低いホーム、か細い枕木の敷かれた線路で大正、昭和の時代に沢山の人を運びました。さらに歩くと「大高前」。県北の名門男子校、大田原高校前の駅舎跡です。当時の高校生のストイックで熱い青春が凝縮されているような質素な佇まいです。私の父と兄2人も大高の卒業生です。



◀乃木神社前

▼大高前



とうとう大きな車輪のある公園に来ました。

ポッポ通り西那須野大田原間4.2キロはこれで終わります。



この先の廃線跡地巡りは当初かなり難航しましたが、ネットで「今昔マップ on the web」の1945年と現在の膨大な地図資料を見つけてからは解明が進み、黒羽までの跡地をすべて住宅地図におとすことができました。現在、全行程を歩いて探索中です（\*1）。



▲蛇尾川鉄橋 昭和43年(大田原市教育委員会提供)

幼心にもとりわけ好きだったのが蛇尾川の上にかける鉄橋。おぼろげな記憶では、2両くらいの小さな列車がトンネルに入って真っ暗になったかと思うと、いきなり丸い光がパーッと入ってきて陽光きらめく川の遙か上方をガタンゴトン、ガタンゴトンと一挙に走り抜けるのです。しかしこの鉄橋こそ、時に獐猛になる蛇尾川の氾濫で決壊し、そのたびごとに莫大なコストがかかって経営を圧迫してきた「河川にかかわる鉄道」の難所でした。

暗黒のトンネルと光り輝く川の風景の跡地を何としてみても見てみたい憧憬から、誰も足を踏み入れられないような草むらを蚊に刺されながらずんずん進みます。



▲今の蛇尾川鉄橋

あ、ありました！  
トンネルは絆創膏でも貼ったかのような様相で塞がれていましたが、アーチ形のレンガの骨格はきれいに残っています。



▲トンネル入口跡

時は私の母の娘時代に戻ります。戦後、母は黒羽駅から東野鉄道に乗って大田原駅まで仕事に通っていました。大勢の人の降り立つ大田原の駅で、毎日毎日、熱心に誰かの選挙の応援演説をしている‘変な人’がいたそうです。その人こそ、海のものとも山のものともわからなかった駆け出しの青年、後に私の父となる渡辺美智雄でした。いまから70年以上も前のことです。



▲大田原駅 昭和29年頃(大田原市教育委員会提供)

今、誰もがWithコロナの新しい生き方を模索しています。ソーシャル・ディスタンスを保ち、何百キロ離れていても手軽にネット会議ができる時代になりました。西那須野と黒羽を結ぶ東野鉄道はわずか13キロの長さでしたが、沢山の人の夢や出会いを運びました。ディスタンスが差別や不満で人々の心まで引き裂くことがないように、新しい国創りの熱気のあった時代を振り返って「天を敬い人を愛す」、かつての西郷翁の自然思想が原風景の中に浮かんできました。

(参考図書)

写真集「東野鉄道の時代」大田原市那須野与一伝承館  
(\*1) 渡辺みゆきFacebookポッポ通り探索シリーズ  
投稿中 2020年7/2, 7/9, 7/26, 7/31, 8/12, 8/14など

